

# 亀三郎の悩みは施設への偏見、差別

救済所では差別もなく、みんな幸せに暮らしていました。しかし、世間の人たちが救済所の人を見る目は冷たいものがありました。特に幼児の時に救済所に来て10数年、結婚適齢期になった娘への心ない差別に、心を痛める亀三郎でした。



何! 救済所をばかにするやつは俺が許さん!

と言った亀三郎だが、力づくではなく娘の嫁ぎ先が納得する手だてを思いつく。

「お前はどこの馬の骨かわからん捨て子だろう。うちの嫁にはできん!」って言うのよ!



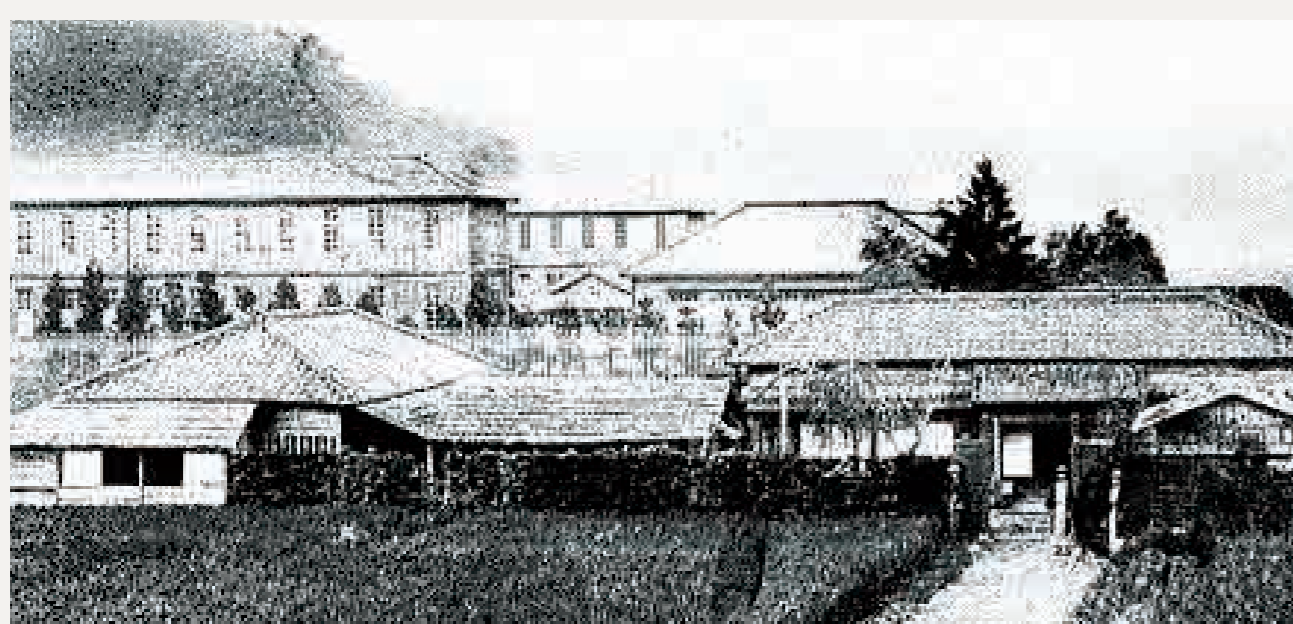
そうだ! 娘に親がないのなら俺が親になればいい。お前は今日から俺の娘だ。榊原家の娘だ。これなら誰も文句は言えまい。

こうして亀三郎は年頃になった娘を養女にして榊原家の娘として嫁がせたのです。その数はおそらく数百人にもなったでしょう。



## 出所者の社会復帰に驚異の実績

前科のある人に対する偏見が強かった時代。彼らの社会復帰は非常に困難でした。働く意欲があっても雇用先がない。せつかく社会に出ても差別され、自暴自棄になって再犯を重ねる。そんなケースが多かったのです。しかし、亀三郎は彼らに深い愛情をもって接し、一生を通して親子のように、兄弟のように付き合おうと諭したのです。結果、驚きの成果が。



出所者の社会復帰を助ける日本最初の更生保護施設は金原明善きんばらめいぜんによって創設された「静岡県出獄人保護会社」。専門のスタッフがいるこの施設からでも社会復帰・自活率は約45%。

一方、亀三郎の救済所からの社会復帰・自活率は80%強。驚きの数字。



金原 明善  
1832~1923

天竜川の治水、各地の植林事業など近代日本の発展に活躍。同時に更生保護活動に尽力。亀三郎を社会運動に導いた父。



榊原 亀三郎  
1868~1925

明善翁に触発されて弱者救済事業を始めた。